

# 公益社団法人日本マレーシア協会 2022年度事業報告



写真上:「青少年研修プログラム」を2年半ぶりにアペン国立公園で実施(11月)  
写真下:「タカサゴの森」植樹行事を3年ぶりにマレーシア・サラワク大学で実施(11月)



# マレーシアにおける活動

本協会では、1995年より、企業、団体、個人からのご協力を得て、ボルネオ島サラワク州において熱帯雨林再生のための植林活動を行っています。フタバガキ在来種の植林を主とした低地熱帯雨林の植生回復と、2017年からはマングローブ植林による湿地林の保全も行っていきます。

2018年からは、マレーシア半島部クダ州においてマングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で、熱帯雨林再生活動を展開しています。

マレーシアでは、2020年3月以降、多くの社会活動が制限されましたが、植林活動地で育苗、植林、メンテナンス作業を継続しました。現在、活動制限はなくなりましたが、マレーシア政府の標準行動規範に従い、健康と安全を第一とし、活動を続けています。

## ●ボルネオ島サラワク州における活動

### 「三菱商事(株) 熱帯雨林再生プロジェクト」

アペン国立公園とサバル国立公園において、これまでの二次林区におけるライン式植林と劣化の激しい草地での密植・混植式を組み合わせ、4万3千本の植林を実施しました。その一部として地域村落の女性が育苗した果樹等の育苗を買上げました。密植式に植えた地域の中に調査区画を設定し、マレーシア・サラワク大学専門家による調査も行っています。



10月5日に三菱商事クアラルンプール支店の方々がサバル国立公園の活動地を視察

### 「木下グループ 青少年研修プログラム」

マレーシアでは昨年6月から小中高校で通常授業が再開しました。室内ではマスク着用が推奨され、村落家庭での負担が続いていたため、本活動を通じて、年間7千枚のマスクを活動地域の小中高校や村落へ寄贈しました。

当年度は活動地域にある小学校で教育プログラムを実施したほか、11月以降3回、アペン国立公園「木下の森」地域にて、約2年半ぶりに地域の小学生、大学生、村人などが参加して「青少年研修プログラム」を実施しました。プログラム後、植林体験の様子を描く絵画コンテストを小学校で実施し、優秀者を表彰したほか、木下グループ本社のロビーに優秀作品が展示されています。



絵画コンテスト表彰式



青少年研修プログラム



### 「タカサゴの森 熱帯雨林再生プログラム」

高砂熱学工業(株)のご協力により、マレーシア・サラワク大学で実施している「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラムは、2020年3月以降、同大学内に学生や外部作業員の立ち入りができなくなったため、教員と大学スタッフによって活動を継続しました。

昨年10月半ばから大学が正常化し、11月26日(土)に学生約100名、高砂熱学工業マレーシア及びシンガポール現地法人から4名、サラワク州政府森林局並びに本協会現地関係者が参加し、3年ぶりに植樹行事を実施しました。



### 「ダンロップホームプロダクツの森」

サラワク州ルンドゥ地区のサンパディ保護林で、(株)ダンロップホームプロダクツご協力による「ダンロップホームプロダクツの森」の活動として、2,400本の植林を8月後半から9月中旬にかけて実施しました。その後、新たな事業看板を設置し、メンテナンス活動を行っています。



### 「JACリクルートメントPPPプロジェクト」

サラワク州スリアン地区のアペン国立公園とサバル国立公園で、JACリクルートメントのご協力による「PPPプロジェクト」として、2,133本の植林を実施しています。

### 「パートナーシップフォレスト」

ダイドードリンコ(株)の自販機設置ご協力企業・団体との「パートナーシップフォレスト」活動として、サンパディ保護林で8月に418本の植林を行いました。



女性が育苗した苗木を買上げて植林

### 「村の女性による育苗プログラム」

植林活動地域住民の生活向上と参加型プログラムの推進として、村の女性による育苗プログラムをアペン国立公園地域とサバル国立公園地域の村落で実施しています。

## ●オランウータン保護へ協力

本協会では2017年度より、サラワク州セメング野生生物保護区にあるオランウータン保護センターへオランウータンが暮らす森の保全と、オランウータンの保護活動への協力として、毎年1千リングを寄付しています。当年度は、2月28日(火)に同センターを訪れ、寄付金を渡しました。

### 「オランウータンの森 保全活動」

株式会社増田製粉所ご協力による「オランウータンの森保全活動」によって、8月から9月に在来果樹を500本植林しました。その後、既植栽木のメンテナンス作業を実施しました。



オランウータン保護へ協力



## ●ボルネオ島サラワク州における外務省関係協力事業

### ①サラワク州先住民居住地域における水環境整備による生活改善事業

場 所 サラワク州サバル国立公園周辺地域

内 容 「日本NGO連携無償資金協力」事業として、脆弱な水環境により生活が困窮している先住民居住地域村落の人々の生活改善を目的とし、「コミュニティ導水システム」の整備による水環境の改善、水源地保全のための植林、水環境改善によって生じる生活余力を活かした生活向上プログラム、自立的な水環境維持管理と生活向上プログラム実施のための組織づくり。

期 間 2021年4月～2024年3月(3年計画、2年目の事業を実施)



水源池に導水用堰堤を造成(左)、水環境が改善し喜ぶ子供達(左)



新たに苗圃を整備し水源池保全用苗木を育苗(左)、育てた苗木を水源地周辺に植林(左)

### ②サラワク州における地域住民主体の多様化森林造成事業

場 所 サラワク州アペン国立公園

内 容 日本・マレーシア外交関係樹立65周年記念事業として、地域社会と協働し、苗圃整備、作業道整備、住民参加によるフタバガキ科在来種と果樹2万本の育苗・植林を実施。

期 間 2022年1月～12月



植栽地域の下刈り作業(左)、整備した苗圃で村人が育苗(右)



## ●マレーシア半島部クダ州その他における活動

### 「(株)木下グループ 木下の森 マングローブ林再生プロジェクト」

2019年度より、(株)木下グループご協力による「木下の森 マングローブ林再生プロジェクト」をマレーシア半島部クダ州のムルボック湿地保護林にて、マレーシア理科大学(USM)及び地域社会と協働して実施しています。

11月3日(木)、マレーシア半島部政府森林局から協力依頼を受け、ヌグリ・スンビラン州ポート・ディクソン地区にある国营電力会社のトゥアंक・ジャアファー発電所が位置する沿岸地区の森林劣化地域において1,000本のマングローブ植林とを行いました。そのため、クダ州ムルボックにある苗木と教育展示資料を提供し、電力会社社員50名、地域の小学生40名、関係者10名の計100名が参加して植林プログラムを実施しました。



ムルボックの苗木を運搬



社員らが参加して植林作業



湿地林について学ぶ小学生



湿地林保全について事前学習

### 「ユアサ商事の森 マングローブ林植林活動」

当年度下期より、クダ州ムルボック湿地保護林にて、ユアサ商事株式会社ご協力による「ユアサ商事の森」プロジェクトを開始しました。

12月3日(土)、第1回植樹プログラムをマレーシア理科大学教育学部の学生25名、教員・職員10名、地域住民12名、クダ州森林局員3名の計50名が参加し、400本の植林を行いました。



大学生が植樹プログラムに参加(左)、活動地に看板を設置(右)



## ●普及啓発と環境教育プログラム

「木下の森 マングローブ林再生プロジェクト」の一環として、マレーシア理科大学、マレー半島北部の行政・教育機関、NGO等とのネットワークを活用し、マングローブ林再生活動に参加する団体の確保に取り組む活動を実施しています。

本年8月、活動地域があるスガイ・ドゥア地区の小学校で「マングローブ保全ポスターコンテスト」を実施し、9月4日(日)にハジ・オマー・タヒール小学校で優秀者の表彰式を行いました。その後、最優秀作品を本協会会報誌Vol.49の表紙で紹介しました。



ポスター部門最優秀作品



ポスターづくりに取り組む児童(左) スガイ・ドゥア地区の教育局長から賞状と記念品を授与(右)

「ユアサ商事の森」プロジェクトの一環として、活動地域のハジ・オマー・タヒール小学校で、同社の「つなぐ」ロゴを中心に、マングローブ生態系の動植物、地域の人々、保全活動の様子などを周りに描く絵画コンテストを実施しました。2月半ばから、各学年で絵画づくりに取り組んでいます。

後日、優秀作品を表彰するほか、同社を通じて日本でも紹介される予定です。



絵画づくりに取り組む児童たち



## ● ルックイースト政策40周年記念 マレーシア・日本フォーラム

12月7日(水)、クアラルンプール・プルマンホテルにおいて、マレーシア戦略国際問題研究所 (ISIS) 主催、外務省、在マレーシア日本大使館、日本マレーシア協会後援による「ルックイースト政策40周年記念 マレーシア・日本フォーラム」が開催されました。

当日は、ルックイースト政策の提唱者であるマハティール元首相の基調講演、同政策の歩みを振り返るため本協会が制作した書籍「40 Years of Look East Policy 1982-2022」の著者、加藤暁子氏による同書籍の紹介が行われるとともに、同政策や日マ関係の今後についてのパネルディスカッションが高橋克彦大使、マレーシア投資開発庁長官、ISIS幹部が参加し行われました。

本協会からは西田重信監事がフォーラムに出席しました。当日は、マレーシアと日本の関係者約100名が来場しました。



マハティール元首相が基調講演(左)、会場の様子(右)



書籍発刊記念セレモニー(左)、著者・加藤暁子氏による書籍の紹介(右)



パネルディスカッション(左)、控室にて:元首相、高橋大使、西田監事(右)



# 国内における活動

## ●マレーシア外務大臣とマレー語を学ぶ 大学生との交流会を開催

5月25日(水)午前、在日マレーシア大使館、国際機関日本アセアンセンターと協力し、東京外国語大学でマレー語を専門的に学び、マレー語のスピーチや詩の朗読のコンテストなどにも参加している大学生と来日中のマレーシア外務大臣との交流会を開催しました。当日は、東京外国語大学生によるマレー語のスピーチ、詩の朗読、マレー語劇の披露、外務大臣と学生とのマレー語による懇談などが行われました。



学生による詩の朗読(左)、外務大臣と学生が親しく懇談(右)

## ●マレーシア・サラワク大学副学長と懇談

6月2日(木)夕刻、国際会議のため来日した、マレーシア・サラワク大学のダト・カディム副学長と都内で懇談しました。同大学とは2010年からサラワク州における熱帯雨林再生活動で協働し、2014年に協力協定を結び、植林活動地での学生による調査研究や教育プログラム交流を推進しています。2018年からは、「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラムを同大学キャンパス内で実施しています。

## ●前在ペナン日本国総領事と懇談

10月28日(金)午後、折笠弘維・前在ペナン日本国総領事(現・在パラオ大使)が本協会事務所を訪問されました。当日は、本協会の最新の活動状況を説明し、その後、マレーシア半島部北部地域における日マ交流やクダ州におけるマングローブ林再生と地域との交流活動などについて意見交換を行いました。

## ●宇都宮大学「東方政策40周年記念事業」 を後援

11月19日(土)から25日(金)、宇都宮大学で行われた「東方政策40周年記念事業 ともに学びあうマレーシア・ウィーク」を駐日マレーシア大使館と共に後援しました。

同大学卒業生の駐日マレーシア大使館一等書記官による講演会と、元留学生のインタビュー記事を掲載した会報誌及びサラワク州における熱帯雨林再生活動を紹介するポスターの提供に協力しました。



講演会の様子



## 国内における活動

### ●マレー語スピーチコンテストを開催

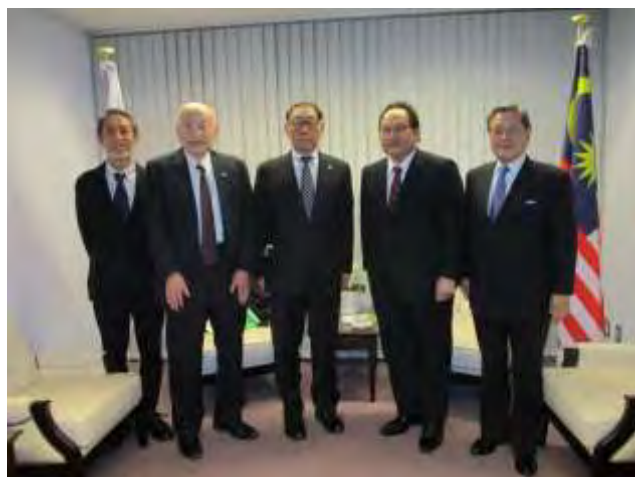
マレー語を学習する大学生を対象に、日頃の成果を発表する機会の提供並びにマレーシアで開催される国際マレー語スピーチコンテスト予選会へ向けた場として、「マレー語スピーチコンテスト日本大会2022」を12月25日(日)、日本アセアンセンターホールにて開催しました。コンテストには首都圏の大学生11名が参加。駐日マレーシア大使館のリザー等書記官が審査員となり優秀者を表彰しました。当日は、検温、手洗い、マスク着用等、新たな社会規則に従った形で行いました。



コンテスト参加者

### ●駐日マレーシア大使主催を表敬訪問

2月15日(水)午前、昨年9月にご着任され、12月に信任状を捧呈された、駐日マレーシア大使シャフリル・エフェンディ・アブドゥル・ガニー閣下を、小川理事長、森林理事、西田監事、新井専務理事が表敬訪問しました。同大使館内で面談し、本協会の概要及び活動内容、次年度の活動予定などをご説明し、今後も緊密に連携していくことで一致しました。ダト・シャフリル大使は、今年も首相訪日など様々な交流が行われる予定なので、日本マレーシア協会と協力を深めていきたいと述べました。



ダト・シャフリル大使(右から2人目)

### ●サラワク州森林公社CEOと会談

本年3月6日(月)午後、日本企業等との業務提携のため来日したサラワク州森林公社ズルキプリ・モハマド・アトンCEOら3名と都内のホテルで会談しました。同公社は本協会が熱帯雨林再生活動を行っているアペン及びサバル国立公園を管轄する州政府機関で、協力協定書を締結し、協働関係にあります。当日は、これまでの活動と今後の予定等について意見交換を行いました。



ズルキプリCEO(中央)

### ●機関誌・資料発行配布、マレーシア関連の書籍の翻訳出版協力

#### 1. 会報「マレーシア」の発行・配布

Vol.46-50を発行・配布しました。

#### 2. マレーシア関連書籍の翻訳出版協力

マレーシア学術出版会、マレーシア翻訳書籍研究所、本協会との翻訳出版協力活動の一環として紀伊國屋書店のご協力を得て、マレーシア書籍の邦訳書として、『マレーシアの歴史的条約集』(仮題)の発行に向けた準備を行いました。

また、マレーシア関連書籍として、『ルックイースト政策40年の軌跡 1982-2022』(日本語版・英語版)の刊行作業を行いました。